

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 令和3年3月2日

事業所名 マーブル上本町校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		2部制にする事で、1度に集まる子どもの人数をおさえている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準以上の人員を配置し、子どもや保護者へのより手厚い支援が行えるようにしている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		全体をみわたせるように、壁もなく床は絨毯の上にマットを敷いて保温している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の消毒作業など清潔を徹底している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		イベント業務や集団活動による遊びなど、みんなでアイデアを考えて行動し、振り返っている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを配布し意向調査を行い、イベントのヒントにしたり、業務改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページ上で公開している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				第三者による外部評価は行っていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部の研修などに参加し、社内伝達を行っている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		定期的に子どもの発達検査を行い、全体的な発達を把握。また、6か月に1回のモニタリングで保護者のニーズを再確認している。保護者ニーズは日々の送迎中にも適宜確認している	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		遠城寺式乳幼児発達検査他標準化された検査を使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		個別支援計画を事前に作成し、スタッフ全員で確認した後、保護者様に確認し個別支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個別支援計画は常に確認できる位置に設置している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		発達段階に応じた案を管理者が提示し、それを楽しめるようにスタッフさんと考えてもらっている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの発達に合わせて変えていっている	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別目標と集団目標を設定し、幼稚園や小学校への地域移行を目標に支援計画を立てている		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝朝礼をし、登校してくれる児童の確認、支援内容の確認、その他スケジュールを確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後には終礼を行い、1日を振り返って共有内容の確認、よりよい支援の方法など考えている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の業務日誌を利用児童毎に記録し、言語訓練では別に個別カルテを作成し記録している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に1回モニタリングを行い、個別支援計画案をスタッフ全員と保護者様とで合わせて作成している。また、日々の成長に伴い、6か月に1回以上のモニタリングを行う事もある。	
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が毎回参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		幼稚園・保育園・小学校はもとより、相談支援専門員さんや役所や児童相談所とも必要に応じて連携を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		在籍なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		在籍なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育所や認定こども園、幼稚園等と電話や訪問等で連携をおこなっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		小学校等と電話や訪問等で連携をおこなっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		大阪市から送られてくる研修等に希望スタッフに参加してもらい、伝達講習を行ってもらっている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		保育園などに通っておられる子どもさんが多く、療育目的で来られる事が多い為、そういった機会を設けていなかった。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎を行わないので、送迎時など頻りに管理者と保護者様が直接話ができる機会があります。モニタリング以外にも保護者様と積極的に話をしよう努めている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		個別にペアレントトレーニングの時間は設けておりません。しかし、日々の送迎や、連絡ノート、直接来校が難しい時などはメールや電話で都度対応させていただいている。	ペアレントトレーニングなど別日程で設けたほうが良いのか、今後検討する	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に1時間ほどかけて、重要事項の説明等を行っております。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインを参考にしながら、標準化されたバッテリーを元に発達の評価を行い、個別支援計画案を作成している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時など頻回に管理者と保護者様が直接話ができる機会がある。モニタリング以外にも保護者様と積極的に話をしよう努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会は開催していません。そういったニーズを今後調査していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		転換の時間を使用したり、17時以降で対応できるよう努力している。できるだけ迅速に行うよう配慮している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		インスタで日々の活動内容をアップしている。	初回の説明で話をしているが、インスタで配信している事を知らない保護者様もおられた。周知を徹底する。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付きのロッカーに個人情報はいれている。また、個人情報を扱う書類業務などは事務所以外で行わないようにしている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		事業所内で聞かれた子どもさんの気持ちなど、子どもさんに許可を得て保護者様に伝えるなど、蝶番役になれるように心がけている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		行っていない。今後、検討する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		定期的な防災訓練もしており、災害時の訓練など今年度は消防隊の方に来てもらった。消防所の見学もさせてもらうなども行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災訓練を定期的に行い、避難路の確認をしている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		てんかん発作をお持ちの子どもさんが1人おられる。来校に頓服をもってきてもらうなど対応している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーをお持ちの子どもさんが1人おられる。保護者様より状況聴取し、わからない所は医師に確認してもらうなどで対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		適宜ヒヤリハットを作成している。簡単に記入しやすいフォーマットにする事で、スタッフが書きやすいように設定している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		ハンドブックの読み合わせや、外部の研修などに参加し、社内伝達を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		現時点で身体拘束を必要とする児童は在籍していない。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。